

第6学年 社会科学学習指導案

1 小単元名 「武士の世の中へ」(6時間)

2 小単元の目標

我が国の歴史的事象について、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べて関連図にまとめ、関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子について多角的に考え、表現することを通して、武士による政治が始まったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ① 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、文化財や地図、年表などの資料で必要な情報を集め、読み取り、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配が広がったことを理解している。 ② 調べたことを関係図にまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。 | ① 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いに着目して問いを見出し、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配の広がりについて考え、表現している。 ② 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子について、多角的に考え表現している。 | ① 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

4 研究内容との関連

(1) 教材について

学習指導要領には、政治単元の後に、歴史単元が位置づけられている。これを生かして、政治的な視点を生かして歴史単元の学習を進められるようにしたい。政治的な視点として、「為政者」「政策」「外国との関係」「庶民の反応」の四つに整理する。これらの視点をもとに歴史的な事象を整理し、総合することで政治学習を生かした歴史単元の学習を進めていけると考えた。

本小単元では、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに武士による政治が始まったことを理解することがねらいである。鎌倉幕府と武士の関係については、「ご恩と奉公」という言葉だけでなく、守護・地頭に任命することや領地の所有と関連させて理解させる。そして、武士による政治の仕組みや鎌倉幕府の支配が広がったことを捉えられるようにしていきたい。また、これまで学習した天皇中心の政治や貴族中心の政治とも比較することで、武士による政治の特徴を理解することができると思える。

(2) 研究内容の関連

①単元内、単元相互における問いの関連性の工夫

歴史の学習は、単元内における問いの連続性を見ると共通して、文化を取り扱う小単元を除き、「為政者はどのように政策を実行したのだろうか」と読み取ることができる。また、歴史の学習で単元相互における問いの関連性を考えると、共通して「どのようにして政治を行ったのだろうか」と読み取ることができる。これは、政治先習を生かした問いの工夫であり、時代相互における政治の特徴の共通性、相違性、関連性を比較できるよさがあると考えた。

②社会的事象の見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

学習問題のまとめでは、「人物」「政策」「国民(庶民)」「外国との関わり」の4つの視点でそれぞれの時代の出来事を関係図にしてまとめ、その関係図を総合して、キャプション(見出し)をつける。キャプションとその理由を交流することで、児童なりの武士の政治の見方を深められるようにする。

③学習の見通しと振り返りの工夫

前単元の政治をもとに、問いをもたせるようにする。また、学習問題に対する考えを表現する場面では、今までの政治の学習とも比較させて、考えをまとめられるようにする。

5 教材構造と問いの構成

本小単元「武士の世の中へ」で働かせたい社会的事象の見方・考え方(視点や方法)に即して教材を分析し、以下のように「教材構造図」に整理した。

学習指導要領 第6学年内容(2)

- ア(エ) 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解すること。
- ア(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。
- イ(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化財などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え表現すること。
- (内容の取扱い)
- キ イの(ア)については、歴史学習全体を通して、(中略)我が国の歴史は政治の中心地や世の中の様子などによって幾つかの時期に分けられることに気付くようにする(後略)。

<教材構造図>

| 過程 | 概念や知識 | 資料 | |
|------|---|---|--------------------------------------|
| つかむ | ㊦もともと貴族に使えていた武士が世の中を治めるようになった。 | 武士は武器の手入れや武芸の訓練、馬の世話などを行い、戦いに備えていた。 | 武士のやかたの様子(想像図) |
| | | 武士は貴族に仕えて警備などをしていた。 | 都の貴族のやしきの様子(想像図) 牛車の列を警備する武士(想像図) |
| | | 武士は貴族の力をしのぐようになった。 | 平治物語絵巻(信西巻) |
| しらべる | ㊧力をつけてきた源氏と平氏が戦い、源義経の働きもあって源氏が勝利し、大きな力をもつようになった。 | 平清盛は政治の実権を握り、政治を思うがままに動かすようになった。 | 武士の戦い(平治の乱) 源氏と平氏の勢力図 平清盛の年表 |
| | | 平氏打倒の兵を挙げた源頼朝のもとに武士たちが集まり、源義経らに率いられた源氏の軍が平氏を滅ぼした。 | 源氏の軍の進路 源義経の働き |
| | ㊨源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士による御恩や奉公などの政治の仕組みをつくり上げた。 | 源頼朝は、山と海に囲まれた地形で朝廷から離れた鎌倉に幕府を開いた。 | 京都と幕府の位置(復元模型) 切り通しの写真 |
| | | 幕府は武士の領地を認めたり、新しく与えたりして、主従関係を結んだ。 | 御恩と奉公の図 幕府の勢力図 |
| | | 承久の乱後、北条氏を中心とした幕府の力は、西国まで広がった。 | 承久の乱 北条政子の訴え(NHK 動画クリップ) |
| | ㊩北条時宗が全国の武士を動員し、元の攻撃を退けた。鎌倉幕府が全国的に力をもつようになった。 | モンゴルは勢力を広げ、日本を従えようとした。 | モンゴルの広がり |
| | | 各地から集められた武士は、領地がもらえると、必死に戦った。 | 元と戦う竹崎季長防塁、石塁 |
| まとめる | ㊧平清盛、源頼朝、源義経の働きによって武士による政治が始まり、源頼朝が御恩と奉公などの政治の仕組みを整えることで幕府の力は全国に及ぶようになった。 | | |

本小単元「武士の世の中へ」で働かせたい社会的事象の見方・考え方(視点や方法)を意識して、児童が追究する「問い」の構成と児童の学びの流れを以下のように「問いの構成図」に整理した。

学習指導要領 学年目標 (学びに向かう力・人間性)

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習も問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛す心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

＜問いの構成図＞

| 視点・方法 | 本小単元における「問い」の構成例(0次案) | 期待する子供の学びの姿 |
|--------------|--|---|
| 武士の働き | <p>単元前：鎌倉時代以前は貴族や天皇など朝廷が中心となり、政治を行っていた。</p> <p>問い：武士はどのような人々だったのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 武士はどのようにくらしをしていたのか？ 武士と貴族はどのようにちがうのか？ </p> | <p>武士は戦いの訓練をしていて、貴族とはちがうくらしをしているんだな！</p> <p>貴族の警備をしていた武士が、どうして貴族より力をもったのだろうか。</p> |
| | <p>学習問題：この時代に登場した武士はどのような政治を行っていたのだろうか。</p> | |
| 源平の戦い | <p>問い：平清盛はどのようにして勢力をのばしていったのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 武士はどのように勢力を伸ばしたのだろうか？ 平清盛はどのような政治をしたのだろうか？ </p> | <p>平氏は源氏に戦いに勝ったり、天皇とのつながりを強めたりして、勢力を伸ばした。</p> |
| 鎌倉幕府の始まり | <p>問い：源氏はどのように平氏を倒したのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 源頼朝はどのように武士を集めたのだろうか？ </p> | <p>源氏は多くの武士を集め、平氏を倒した。</p> |
| | <p>問い：源頼朝はどのような政治をしたのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> なぜ鎌倉に幕府を開いたのだろうか？ どのような政治の仕組みを作ったのだろうか？ </p> | <p>源頼朝は、幕府と武士が協力できる仕組みを作ったのだと思う。</p> |
| 元との戦い | <p>問い：北条時宗はどのように元軍と戦ったのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 元とはどのような国なのだろうか？ なぜ武士が団結したのだろうか？ なぜ武士は命がけて戦ったのだろうか？ </p> | <p>武士にとって土地は命がけて守るほど、大切なものなのだなぁ。</p> |
| 事象を関連付ける総合する | <p>問い：調べたことを関係図にし、学習問題についての考えをまとめよう。</p> | |
| | <p>頼朝は、御恩と奉公など土地によるつながりをうまく使って政治を安定させていた。きまりや仕組みを作って政治を行っていると、天皇中心から武士の世の中になっても、変わらないことが分かった。さらに現在の政治の仕組みや進め方にも共通することがあることが分かった。</p> | |

6 小単元の指導計画 (全6時間)

| 過程 | ねらい (数字は時数) | 主な学習活動 (○) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・) | ◎資料 □指導上の留意点 【評価】 (★見方・考え方を働かす) |
|-----|--|--|--|
| つかむ | <p>武士の生活の様子や武士と貴族との違いを調べ、武士の思いや願いについて考え、学習問題をつくる。①</p> | <p>○前単元の復習をする。 ○武士の登場の経緯を知る。 ◆武士は、どのような人々だったのだろうか。 ○武士の暮らしについて調べる。 ・地方の武士は自分の領地が見渡せる場所にやかたを建てて住んでいた。 ・武器の手入れや武芸の訓練、馬の世話などを行い、戦いに備えていた。 ○貴族の暮らしと比べる ・戦いに備えている。 ・広い池や庭もない。 ○絵と写真を比べて見て、疑問を出し合う。 ・なぜ、貴族は武士に道をゆずっているのだろうか。 ・武士の方が力をもつようになったのかな。 ○学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題 この時代に登場した武士は、どのような政治を行っていたのだろうか。</p> </div> <p>・平清盛という人は、貴族から武士に政治の中心を移したのではないか。 ・源頼朝は、幕府という新しい政府を作って武士に有利な政治をしたのかもしれない。 ・元と戦ったということは、外国との関係はあまりよくなかったのかもしれない。</p> | <p>◎「武士のやかたの様子 (想像図)」 □武士が登場した経緯や半民半農の生活をしてきたことにふれる。 ◎「都の貴族のやしきの様子 (想像図)」 □武士が戦いに備えて暮らしていたことを確認する。 ◎「牛車の列を警備する武士」(想像図) ◎「平治物語絵巻 (信西巻)」 ◎この時代の主な出来事 (年表)</p> <p>★予想を整理し、学習の見通しをもつ。 □人物と行ったことに着目させて、学習計画を立てる。 【思考①】ノートなどの記述から「世の中の様子、人物の働きなどに着目して問いを見出し、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて考え表現しているか」を評価する。 【態度①】ノートの記述などから、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持っているか」を評価する。</p> |
| | <p>資料や年表などから、平氏や源氏などの武士団が資料をしのぐほどの力をもつようになったことを調べ、争いに勝った平氏が政治を動かすようになったことを理解する。②</p> | <p>○戦う武士の様子をつかむ。 ・建物が燃えるほどの激しい戦いだ。 ◆平清盛は、どのようにして勢力を伸ばしていったのだろうか。 ○武士が勢力をのばしていった経緯について調べる。 ・源氏と平氏の勢いが強く、互いに戦っていた。 ・太政大臣になり、娘を天皇のきさきにした。 ○清盛の政治と貴族の政治の相違点を話し合う。 ・娘を天皇のきさきにしたのは似ている。 ・武士で、太政大臣になれたというところが違う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>武士団の中で力の強かった平氏と源氏が戦った結果、平清盛を中心とした平氏が政治の実権を握り、政治を思うままに動かすようになった。そして、貴族や他の武士たちの間で不満が高まっていった。</p> </div> | <p>◎武士の戦い (平治の乱) ◎源氏と平氏の勢力図 (勢力の広がりを視覚的に捉えられるようにする。) ◎平清盛の年表 ★平氏(平清盛)が、どのように力を付けたのかに着目できるように、年表を工夫する。 □前単元で書いた貴族の政治の関係図をもとに、藤原氏が行った政治と平氏の政治の共通点と相違点について考えさせる。 【知技①】ノートなどの記述から、「情報を読み取り、争いに勝った平氏が政治を動かすようになったことを理解しているか」を評価する。</p> |

| | | | |
|-----|--|--|--|
| | <p>源頼朝の挙兵や源義経の活躍などを調べることを通して、源氏により平氏が滅ぼされ、源頼朝が征夷大將軍になり鎌倉幕府を開いたことを理解する。③</p> | <p>○源頼朝が平氏を倒すための兵を集めたことを知る。 ◆源氏は、どのように平氏を倒したのだろうか。 ○源頼朝が、武士をたくさん集めていたことを知る。 ○源義経はどのように平氏を滅ぼしたかについて調べる。 ・義経は、一の谷や壇ノ浦の戦いなどで平氏と戦った。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">平氏打倒の兵を挙げた源頼朝のもとに武士たちが集まり、源義経らに率いられた源氏の軍が平氏を滅ぼした。</p> | <p>◎源氏の軍の進路 ★源氏と平氏の戦いの様子の時間経過や相互関係に着目できる資料や板書をする。 ◎源義経の解説 □源氏が平氏を滅ぼしたことや義経が頼朝に討たれてしまうことを捉えられるようにする。 □源義経の活躍と多くの武士が源頼朝に従うようになった理由とを関連付ける。 【知技①】ノートなどの記述から、「情報を読み取り、源平の戦い、鎌倉幕府の始まりについて理解しているか」を評価する。</p> |
| 調べる | <p>鎌倉幕府が御恩と奉公の関係で武士たちを従えたことや、朝廷の軍を破って、その力が西国まで及ぶようになったことを理解する。④</p> | <p>○鎌倉の地形について話し合う。 ・山と海に囲まれている。 ○頼朝がなぜ、鎌倉に幕府を開いたのかについて話し合う。 ・京都から離れているから。 ・東国の御家人を集めやすい。 ◆頼朝は、どのような政治をしたのだろうか。 ○頼朝が武士を従えた方法について調べる。 ・武士の領地を認めたり、新しく与えたりした。 ・武士が集まれるように道路を整備した。 ・武士は、幕府のために戦った。 ○頼朝の死後の幕府の政治について知る。 ・北条氏が執権として幕府を引き継ぐ。 ・承久の乱後、幕府の力が西国まで広がった。 ・武士のための法律ができた。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">源頼朝は征夷大將軍となり、鎌倉幕府を開いた。そして、ご恩と奉公の主従関係で武士を従えた。承久の乱の後、執権の北条氏を中心とした鎌倉幕府の力は、西国まで及ぶようになった。</p> | <p>◎京都と幕府の位置（地図） □地図帳を使って、鎌倉と平安京（京都）が離れていることを捉えさせる。 ★地理的な条件に着目できるように、鎌倉に幕府を開いた意図を図に整理させる。 ◎ご恩と奉公（図） ◎幕府の勢力図 ★幕府と御家人の関係に着目できるように、資料提示や板書を工夫する。 ◎鎌倉への道と有力御家人の領地 ◎切り通しの写真 □道路の整備が戦いとつながっていることを関連させる。 □源頼朝と武士の主従関係については、ご恩と奉公という言葉だけでなく、守護地頭に任命することや領地の所有と関連させて考えさせる。 【知技①】ノートなどの記述から、「情報を読み取り、鎌倉幕府の始まりについて理解しているか」を評価する。</p> |
| | <p>幕府が武士を動員し、元の攻撃を退けたことなどを調べ、元との戦いの後、ご恩と奉公で結びついていた幕府と武士との主従関係がくずれていったことを理解する。⑤</p> | <p>○資料を見て、元寇があったことや元の勢力を確認する。 ◆北条時宗は、どのようにして元軍と戦ったのだろうか。 ○元との戦いの様子について調べ、分かったことを伝え合う。 ・爆発の武器を使っている ・元の方が数が多い。 ・防塁を作って、対抗した。 ○元を破ることができた理由を話し合う。 ・領地がもらえると思ったから必死で戦った。 ・幕府の力が全国に及ぶようになって、西国の武士も逆らえなかった。</p> | <p>◎モンゴル（元）の広がり ◎蒙古襲来絵詞 □元軍と武士たちの戦い方を図に整理して比較し、理解しやすくする。 ★全国の武士が動員された戦いであったことに着目させるように資料や板書を工夫する。 ◎元軍の進路と防塁(地図) □地図で、幕府の位置と九州の位置を確認し、幕府の力が全国に及ぶようになったことに気づくことができるようにする。</p> |

| | | | |
|-------------|---|---|---|
| | | <p>元軍の襲来に対して、各地から集められた武士は一所懸命に戦った。しかし、幕府から新しい領地を与えられなかったので、幕府と武士の主従関係はくずれていった。</p> | <p>【知技①】ノートなどの記述から、「情報を読み取り、元との戦いについて理解しているか」を評価する。</p> |
| <p>まとめる</p> | <p>調べたことを関連図にまとめ、学習問題に対する自分の考えをまとめる。⑥</p> | <p>◆武士による政治を関係図にし、学習問題についての考えをまとめよう。</p> <p>○調べて分かったことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平清盛は、平氏中心の政治をしていた。 ・源義経が、中心となって平氏を倒した。 ・源頼朝は、幕府を開いて、武士の政治を進めた。 <p>○武士による政治の関係図に必要なことを出し合い、関係図に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頼朝と北条時宗 ・幕府に従う武士 ・朝廷 ・ご恩と奉公 <p>○関係図にキャプションをつけ、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府も武士もウイン、ウイン ・武士の願いを叶える幕府 ・武士主権の政治 <p>○学習問題に対する考えをまとめる。</p> <p>平清盛、源頼朝、源義経の働きによって武士による政治が始まり、源頼朝が御恩と奉公という主従関係によって武士に命令できるようにした。</p> <p>今までは、天皇や貴族に命令されて、庶民が従うばかりだった。また、平清盛も武士で朝廷の中ではえらくなかったけど、貴族の政治の真似をしている。頼朝の政治は、土地がほしいという武士の願いをうまく使って世の中を安定させていた。でも、ご恩によって得をする人はいたかもしれないけど、庶民全員が幸せになったわけではないと思う。</p> | <p>◎藤原道長の政治の図</p> <p>◎平清盛</p> <p>◎源義経</p> <p>★これまでの学習を通して、登場した人物の業績を政治(国の治め方)に着目させながら関連付けてまとめさせる。</p> <p>□幕府の位置や大きさなどを児童と話し合いながら、関係図をまとめられるようにする。</p> <p>□関係図は、学級全体でまとめ学習問題に対する結論を共有する。</p> <p>□キャプションの理由を、関係図を使って説明させることを通して、事実を基に自分の考えをもてるようにする。</p> <p>□天皇や貴族中心の政治の仕組みと比べることで武士による政治の特徴が捉えられるようにする。</p> <p>【知技②】関係図やキャプションなどの記述から、「武士による政治が始まったことを理解しているか」を評価する。</p> <p>【思判表②】関係図から、「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子について(多角的に)考え表現しているか」を評価する。</p> |

7 本時の学習（6/6時間）

(1) 本時のねらい

- 調べたことを関係図やキャプションでまとめ、世の中の様子を多角的に考え、武士による政治の仕組みを理解することができる。

(2) 本時の展開

| | ○主な学習活動 ・児童の予想される反応 | □留意点 ★見方・考え方を働かす手立て ◎資料 【評価】 |
|------|--|--|
| つかむ | <p>本時の問い 武士による政治を関係図にし、学習問題についての考えをまとめよう。</p> <p>○調べて分かったことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平清盛は、平氏中心の政治をしていた。 源義経が、中心となって平氏を倒した。 源頼朝は、幕府を開いて、武士中心の政治を進めた。 | <p>◎藤原道長の政治の図</p> <p>◎平清盛</p> <p>◎源義経</p> <p>★これまでの学習を通して、登場した人物の業績を政治（国の治め方）に着目させながら関連付けてまとめさせる。</p> |
| つなげる | <p>○武士による政治の関係図に必要なことを出し合い、関係図に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 頼朝と北条時宗 幕府に従う武士 朝廷 ご恩と奉公 <p>○どんな政治を行われていたといえるか、関係図にキャプションをつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕府も武士もウイン、ウイン 武士の願いを叶える幕府 武士主権の政治 | <p>□政治の中心が幕府であったことをおさえ、残りのカードとの関係性に注目させる。</p> <p>□指名した児童の関係図をモニターに映し、説明させることを通して、武士による政治の事実的な理解を確認する。</p> <p>□黒板にキャプションを書いた画用紙を貼って、児童同士が交流できる場を設定し、主体的な学習を促す。</p> |
| まとめる | <p>平清盛、源頼朝、源義経の働きによって武士中心の政治が始まり、源頼朝が御恩と奉公という主従関係によって武士に命令できるようにした。頼朝は、御恩と奉公など土地によるつながりをうまく使って政治を安定させていた。きまりや仕組みを作って政治を行っているということは、天皇中心から武士の世の中になっても、変わらないことが分かった。さらに現在の政治の仕組みや進め方にも共通することがあることが分かった。</p> | <p>□これまで学習した政治の仕組みと比べることで武士による政治の特徴が捉えられるようにする。</p> <p>【知技②】関係図やキャプションなどの記述から、「武士による政治が始まったことを理解しているか」を評価する。</p> <p>【思判表②】関係図から、「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子について（多角的に）考え表現しているか」を評価する。</p> |

<板書>

9/18（金） 武士の世の中へ⑥

学習問題
この時代に登場した武士はどのような政治をしたのだろう。

貴族中心の政治の図

調べたことを関係図にし、学習問題についての考えをまとめよう。

平清盛

源義経

朝廷で力をもつ 平氏を倒す
平氏中心の政治

元

朝廷

<武士による政治>

鎌倉幕府
源頼朝
北条時宗

強い幕府を作る ← 奉公

土地 → たくさんのご恩
武士を仲間にする

武士

つまり
頼朝は、ご恩と奉公など土地によるつながりをうまく使って政治を安定させた。

<考えたこと>

- 土地によるつながりをうまく使っている。
- きまりや仕組みを作っているのは、
- 天皇、貴族中心の時と変わらない。
- 武士のことも考えた仕組み

→ 今の政治と似ている。